

「いつまでも若々しく生きる街づくり」を考える

—足利ロータリークラブ卓話内容—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 御縁がありまして、1月28日の金曜日に足利ロータリークラブで卓話をさせていただきました。ロータリークラブは県内各地にあり、素晴らしい活動をなさっています。足利ロータリークラブも立派なクラブの一つで、非常に素晴らしい活動をなさっているとお聞きしています。
3. 卓話で私がお話させていただいたのは、「いつまでも若々しく生きることのできる街づくりをしよう」ということです。
4. 私は、「一生勉強、一生青春」ということばが大好きです。これは、足利市に在住なさっていた相田みつを先生のことばです。相田先生は、存命中に私の家の前を毎日毎日散歩なさっておられました。その当時はどこのどなただろうと思っていたのですが、あとでお聞きして相田先生であることを知りました。そのときにお話しておけばよかったと、今は少し後悔しています。ただ、先生が遺して下さったことばの中に「一生勉強、一生青春」ということばがあり、私はいろいろなことを考えるときなどにこれを頼りにしています。今回の「いつまでも若々しく生きる街づくり」もそうです。
5. では、本題に入ります。足利市の人口は年々減少し、16万人を割ってしまいました。そのような状況の中で、足利市を活性化させ、人口を20万人にするにはどうしたらよいかをいろいろと考えてみました。その考えを、足利ロータリークラブの卓話でお話させていただいたのです。
6. 各々の街には文化や伝統がたくさんあり、もちろん足利市にもあります。その一つが足利学校です。街を活性化させたり人口を増やしたりするためには、その街の文化や伝統を尊重し、それを引き継ぎ、その上で現代的な社会の課題に真っ正面から取り組むのが一つのやり方であると思います。
7. そこで、足利市が生んだ素晴らしい書家である相田みつを先生の「一生勉強、一生青春」という考え方を知ること、また、日本最古の学校である足利学校では儒教や易学を盛んに学んでいましたが、その儒教の一番大切な本である「論語」を学ぶこと、さらには躰教育をすることを、足利市の素晴らしさを引き継ぐものとして行うとよいと思います。ちなみに、足利市内のすべての小・中学校では「論語」の素読を実施しているようです。これは素晴らしいことだと思います。また、躰の中身は、美しい立居振舞いと敬語表現を含む言葉遣いだと言われています。

8. それから、他の市町でもやっているかもしれませんが、足利市の商工会議所では「5S 運動」を推進しています。5S とは整理・整頓・清潔・清掃・躰のことで、それらをローマ字で書き表すと「S」で始まることから、その頭文字をとってこのように呼んでいます。この「5S 運動」を保育園児・幼稚園児も、児童・生徒・学生も、社会人も、そして退職してからもみんなで実行すると、きれいな街ができ、子どもたちも素晴らしくなると思います。
9. さらに、帝王学の古典・リーダーシップの古典に、中国の唐の太宗(いわゆる王様)の言動をまとめた「貞観政要(じょうがんせいよう)」があります。この本は非常に有名です。あまりにも素晴らしいので、徳川家康は足利学校に命じてそれを改版つまり出版させました。そして、江戸時代に広く読まれました。特に、明治維新のときに活躍された方々は皆読み、明治天皇をはじめとして明治時代をリードした方々が非常に親しんだということです。古くは、北条政子やその時代の人たちも読んでいたそうです。
10. このように、「貞観政要」も足利市に御縁のある本ですので、先程の「論語」とともに生涯をかけて親しみ、足利市民としての基礎を築くべきであると思います。
11. 足利以外の街にもそれぞれにゆかりのある素晴らしい本や文化があると思いますが、足利市には「論語」や「貞観政要」があるのですから、これを読むことをお勧めします。「貞観政要」によると、リーダーとして一番大事なのは部下の厳しい意見を率直に聞き、それを参考にしながらみんなで一つの国・団体などをつくることだそうです。
12. ところで、現代的な問題は何かと言いますと、「高齢化社会」です。先週もお話しましたが、欧米では高齢者が大学などの高等教育機関で学ぶことが盛んで、そこで学んでいる方々は皆さんとても元気です。ですから、奨学金を出してまでも、高齢者の方々が高等教育機関で学ぶことを奨励していただきたいと思います。
13. また、土地に親しんでいる方も皆元気です。ですから、ロシアのダーチャ(農園付き別荘)のようなところや森での活動を、40歳以上の市民の皆さんに奨励するのもよいと考えます。
14. さらに、50歳を過ぎたら10年ごとにこれからどのように過ごすかを勉強し、次の10年間を迎えるとよいと思います。55歳頃になったら60歳からどうするか、65歳頃になったら70歳から80歳をどのように過ごすか、80歳の手前になったら80歳から90歳までの10年間をどうするか、90歳近くになったら90歳から100歳までをどのように生きるか、100歳になる手前には100歳以降の10年間をどうするかということを一人ひとりが勉強してはじめて素晴らしい生き方ができますので、このようなことのできる街づくりを進めてはどうかというお話もさせていただきました。
15. 今日は、1月28日の金曜日に行われた足利ロータリークラブの例会でお話させていただいた内容を紹介いたしました。皆さんはどのようにお考えでしょうか。

— 2011年10月27日改訂 —